

# SCOPE



Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura

## 身を守るための黒いライン



©IKUO NAKAMURA

色彩の派手なサンゴ礁の魚の中では、これでもシンプルな部類に入るニセフウライチョウウオ。30cmほどもあり、チョウチョウウオの中でも大型種といえる。

カップルで泳いでいることが多く、とがった口先でサンゴのポリプ(触手)をチョンチョンとつつき、サンゴの中に共生している海藻の一種、褐虫藻を食べる。餌は藻ばかりではなく、底生の小動物まで食べるところをみると、けっこう貪欲なのかもしれない。

姿、形、色彩までそっくりの魚がいるが、その名はヒメフウライチョウウオという。ニセフウライはご覧のとおり、背びれの下部分から尻尾にかけて、太くて黒いラインが走っているが、ヒメフウライは、さらに細くて黒い1本の線がそのライン上に走っている。両者とも生息域は同じだから、まぎらわしいことこのうえない。

チョウチョウウオの仲間は、どこに眼があるのか解りづらい。これは外敵から身を守る手段の1つなのだ。ごていねいに、尻尾のほうに眼とおぼしき丸い黒点模様を持つチョウチョウウオも多い。外敵は離れた位置から襲う場合、逃げる方向を予想して飛びかかる。眼を隠すのも、擬態の眼で相手をかく乱するのも、自然界で生きるための知恵なのである。

### Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラバゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。ホームページではファンとメール交換も行う気さくな中村氏。写真展や講演、テレビ出演など最新のスケジュールもチェックできる(<http://www.squall.co.jp/>)。



### 編集後記

今年の巻頭企画が、動物シリーズだから...ではないですが、我が家に突然、大型犬( )と小型犬( )の子犬2匹がやって来るようになりました。まずは、大型犬がやって来ます。ピシっとしつけて立派な犬に育てなくては、と「育て方」「しつけ方」等々の本を読み漁っている今日このごろです。以前犬を育てた時は、どうやってトイレを覚えてもらったんだっけ?そして、何をカジられるのだろう?頭の痛くなる種もいろいろありますが、2匹とも元気で、気立ての良い犬に育ってくれば...そして、どんな凸凹コンビが出来上がるやら?! このFINDが皆様のお手元に届くころには、育児ならぬ犬育てに大奮闘中!のことでしょう。(T.S.)

FIND 2003年4月発行 Vol.21 No.2/No.3 通巻102号

発行 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3326 FAX 03-5322-3395

印刷

株式会社シーコーポレーション